



ACCESS 〒420-0881 静岡県静岡市葵区北安東4-27-2



●公共交通機関をご利用の場合

JR静岡駅北口「静岡駅前」から静鉄バス利用 [乗車時間約20～25分]

5番乗り場	上足洗線(75・76番) 唐瀬線(77番) 唐瀬線(78番)	①「北安東四丁目静岡社会健康医学大学院大学前」下車すぐ ②「県立総合病院入口」下車 徒歩約7分 ③「県立総合病院」下車 徒歩約5分
10番乗り場	県立病院高松線(70番) 県立病院高松線(90番)	④「県立総合病院」下車 徒歩約5分 ⑤「県立総合病院入口」下車 徒歩約7分
16番乗り場	大浜麻機線(73・74番) 中原池ヶ谷線(71番)	⑥「北安東三丁目」下車 徒歩約5分 ⑦「平ヶ谷」下車 徒歩約11分

●車をご利用の場合 ※大学敷地内に駐車場があります。

国道1号静岡バイパス「唐瀬IC」から約3分
新東名高速道路「新静岡IC」から約15分
東名高速道路「清水IC」から約20分 / 「静岡IC」から約25分

その挑戦が、
世界をもっと健康にする。



公立大学法人
静岡社会健康医学大学院大学

お問い合わせ先

静岡社会健康医学大学院大学 教務課
TEL. 054-295-5401 FAX. 054-248-3520
E-MAIL. info@s-sph.ac.jp
火曜～土曜 8:30～17:15

静岡SPH



<https://s-sph.ac.jp>



YouTube



facebook



公立大学法人
静岡社会健康医学大学院大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

Features

本学の特徴

社会健康医学とは

世界の先進国では高齢化が進み、我が国ではこの半世紀で平均寿命が20年も延伸しました。反面、健康寿命とのギャップが10年以上あり、いかにこのギャップを縮めるかが重要な課題になっています。患者個人を対象に病気の根治を目指す治療医学と、人集団を対象に発症や重症化を防ぐ予防医学とが両輪となることが新しいスタンダードとして求められている現代において、後者の役割を担う学問が社会健康医学です。

伝統的な公衆衛生学にゲノム医学や医療ビッグデータサイエンスなどの新しい学術領域を加えることで、社会における人の健康を幅広い視点から考究するとともに、研究成果を社会に実装します。



基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。

基本方針

1

最先端の研究

臨床医学・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析研究に取り組みます。

2

高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、最前線で医療・保健・福祉の向上に貢献するプロフェッショナルな人材を育成します。

3

成果の社会還元

多彩な研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

Policy

アドミッションポリシー

医療や疾病予防における様々な課題に社会健康医学から立ち向かう高い意欲を持つ方を歓迎します。

- ▶ **情熱** 健康と医療、環境に対する高い関心とリサーチマインドを持っている方
- ▶ **発見する力** 最新の研究成果や知見を活用して、既存の枠組みにとらわれることなく、新たな視点で課題を見つけ、解決に取り組むことのできる方
- ▶ **改革する力** 医療や介護などの専門的知識に裏打ちされた貴重な経験を有し、健康課題に対して、実践的な解決策を提示しようとする方
- ▶ **実践する力** 大学院修了後も、地域の医療・介護等の現場において、リーダーとして活躍し、健康寿命の延伸に寄与したいという意欲のある方

目指す人物像

社会健康医学の学識を社会に還元し
医療・保健・福祉の向上に貢献できる
プロフェッショナルな人材

活躍が想定される職業

医療に直接携わる医師、看護師、薬剤師や、地域で人々の健康を守る保健師、栄養士等の専門職、企業（製薬企業、バイオ系企業、データサイエンス企業等）の研究開発職等のスペシャリスト

Message

学長メッセージ

静岡社会健康医学大学院大学
学長

宮地 良樹 Yoshiki Miyachi

1951年静岡市生まれ。京都大学医学部卒。京大医学部講師・天理病院皮膚科部長などを経て、1992年から群馬大学医学部皮膚科教授。1998年から京都大学大学院医学研究科皮膚科教授。2014年から滋賀県立成人病センター（現滋賀県立総合病院）病院長・総長・京都大学名誉教授。2021年から現職。専門は、皮膚科学/アレルギー学/社会健康医学など。



静岡SPH
行動する公衆衛生学を
目指して

本学は、2021年春に日本で初めて「学部を持たない単科の社会健康医学の大学院」として開学し、2023年には博士課程も設置しました。現在、教育・研究体制はさらに充実し、みなさんが落ち着いて学び、深く研究に取り組める環境が整っています。

開学以来私たちは、「静岡から社会健康医学を発信する拠点になること」を掲げ、一歩ずつ歴史を築いてきました。エビデンスにもとづく研究の成果を県内外へ還元し、実際の健康政策へつなげていく——。こうした「新しいタイプの大学

院大学」の姿を社会に示してきたと自負しています。

また、医療ビッグデータを活用した実践的研究、地域コホート研究の成果の社会還元、県内の主要病院や大学との連携、産官学・地域との協働などを進め、「行動する公衆衛生学」を合言葉に、県民のウェルビーイング向上に目に見える形で貢献することを目指しています。

静岡SPHは、社会健康医学に特化したユニークな大学院として、これからも歩みを止めず、さらに大きく成長していきます。本パンフレットを通じて、社会健

康医学を学び、専門職としての幅を広げたい方、研究者としての道を切り開きたい方に、ぜひ仲間に加わっていただければ幸いです。

皆さん一人ひとりの学びと挑戦が、静岡県はもちろん、「世界をもっと健康にする」という本学の理念の実現に大きくつながると確信しています。

Curriculum

カリキュラム

社会健康医学の5領域

公衆衛生専門職教育の国際基準に準拠したカリキュラム

疫学

社会や臨床現場において解決すべき健康課題を見出すとともに、その解決のための研究計画を立案し、研究に必要なデータを収集・分析した結果を正しく解釈する能力を養います。

医療統計学

データを正しく分析するために必要な統計学の知識と分析技術を修得します。また、近年の情報解析技術の進歩によって利活用が進んだ医療ビッグデータの解析・活用方法についても学びます。

環境健康科学

自然環境や社会環境など、人間を取り巻く環境が人々の健康に及ぼす影響とその対策について学びます。

行動医学・ヘルスコミュニケーション学

健康的な行動の獲得を後押しするために、人と社会に対する実効性の高いアプローチをエビデンスに基づいて立案し、実行する能力を養います。

健康管理・政策学

保健・医療に関わるさまざまなデータを駆使し、個人や社会のレベルで健康管理を推進する政策を立案・評価するための学識を身につけます。



異なる領域の

プロフェッショナルが語り合う

PUBLIC HEALTHでの学び

静岡社会健康医学大学院大学には、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まります。専門分野や関心領域は異なりますが、共通しているのは「社会を健康にしたい」という思い。本学の教育の特徴や、社会健康医学という学問について、3名の在学生在が語り合いました。

※掲載されている学年は撮影時のものです。

巻頭特集 1

Students' CROSS TALK

在学生クロストーク

一瞬の判断が患者の生死を左右するため、常に最善の選択を追求しています。

有馬 大輔さん 修士課程 2年*

心臓血管外科医



患者の薬の管理や指導にも携わり、安全で適切な薬物療法の実現を目指しています。

長谷 奈那子さん 修士課程 2年*

病院薬剤師



医療や福祉など関係機関と連携し、幼児健診を通じて地域の親子の健康と子育て支援に取り組んでいます。

榛葉 敦子さん 修士課程 1年*

行政保健師



専門性を深めて強みを際立たせる

—静岡SPHに入学した理由は何ですか？

有馬 以前から臨床研究や医療統計を学びたいと考えていました。独学で勉強していましたが、限界を感じることも多く、周囲にも詳しい人が少なかったため、体系的に学べる環境を探していました。そんなとき、地元に戻るタイミングでこの大学の存在を知り、学ぶ絶好の機会だと考えて入学を決めました。

長谷 研究を基礎からしっかり学びたいと考えたのがきっかけです。学会発表の機会はありましたが、統計や研究手法に関する知識が曖昧なままでした。薬学系の博士課程も検討しましたが、勤務先の先生に「働きながら学べる大学がある」と聞き、自分に最適な環境だと感じて入学しました。

榛葉 行政には膨大なデータが蓄積されていますが、その活用方法が確立されていないことに課題を感じていました。データを分析し、根拠に基づいた政策を立案する力を身につけるため、本学で学ぶことを決めました。研究の視点を持つことで、実務にも新たなアプローチができると考えています。



—現在、どのような研究をしていますか？

有馬 静岡県民のレセプトデータを活用し、二次利用の観点から研究を行っています。具体的には、大腸がんの

治療に関する医療機関ごとの治療傾向を分析し、より良い治療選択の可能性を探ることを目的としています。

長谷 私も有馬さんと同様に、レセプトデータを用いた研究を行っています。具体的には、手首の骨折を経験した患者が、その後、股関節骨折を起こすリスクについて分析しています。股関節骨折は死亡率の上昇につながる事が知られていますが、早期にリスクを特定し、予防的介入ができないかを検討しています。

榛葉 夫婦関係と育児の関係性について研究しています。乳児を育てる両親へのアンケートを基に、第1子誕生後の関係悪化の要因を分析しています。行政の現場でも育児期の夫婦関係に関する相談が多く、それが研究を始めたきっかけです。調査を進める中で、男性の認識と女性の満足度に大きなギャップがあることがわかり、より深い分析が必要だと感じています。

共有するからこそ広がる学び

—静岡SPHに入学して良かったことは何ですか？

有馬 研究の進め方を体系的に学べたことが、大きな収穫でした。目的の明確化や適切な手法の選択など、研究の流れを実践的に理解できたことで、医療への視野が広がりました。現在、集中治療室の看護師が研究を始めるにあたって、その立ち上げや統計分析の支援をしています。こうしたアドバイスができるのも、本学での学びがあったからこそだと感じています。

長谷 授業の内容がとても面白く、学ぶことが楽しく感じています。働きながらの学習は大変ですが、新しい知識を得る喜

びのほうが大きいですね。とくに発表やディスカッションを通じて、ほかの方の考えを知る機会があるのが魅力です。授業後に感想を共有し合える仕組みもあり、多様な視点に触れることで理解が深まります。

榛葉 最先端の医療や研究に触れ、それを住民向けの健康施策にどう活かすかを考えられる点が、行政に携わる立場として大きな学びになっています。本学での経験を通じて、エビデンスに基づいた知識の理解が深まり、論文にも積極的に触れるようになりました。今後は、学んだことを市民にわかりやすく伝え、実際の施策に活かしていきたいと考えています。



学びを現場につなげていく

—今後の目標を教えてください。学んだことをどう活かしていきたいですか？

有馬 臨床医としての診療を続けながら、臨床研究にも積極的に取り組みたいです。日々の診療の中で感じる疑問を科学的に解明し、より良い医療の提供につなげていきたいですね。また、後輩の育成や研究のサポートにも関わり、研究しやすい環境づくりに貢献できればと思っています。

長谷 この2年間は、学びを深める時間でした。今後は、研究をさらに発展させ、学んだ知識を実践に活かしていきたいです。

とくに研究手法を磨き、質の高いデータ分析を行えるようになりたいと考えています。

榛葉 異なる分野のデータを統合し、実態に即した研究を進めることを目標としています。現在、行政が保有する健康や教育に関するデータは断片化されていますが、それらを結びつけることで新たな視点を提供できると考えています。とくに発達障害や不登校の課題に対し、データを活用した実証研究を進めていきたいです。

—入学を検討している方々にメッセージをお願いします。

有馬 静岡SPHは、視野を広げる絶好の環境です。学ぶことで得られる知識や経験は非常に価値があり、期待に応えてくれる場だと感じています。仕事との両立は大変ですが、オンライン授業やオンデマンド配信を活用すれば、無理なく学ぶことができます。ぜひ、自信を持って挑戦してほしいです。

長谷 薬剤師の方にとって、幅広い診療科の知識を得るだけでなく、自分の専門分野を深められる環境が整っています。自分の興味を追求できる場として、ぜひ挑戦してみてください。

榛葉 静岡SPHでは、異なる職種の方々と出会い、共通の研究を通じて学びを深めることができます。行政の視点からも、多くの学びがありました。興味を持ったなら、ぜひ飛び込んでみてください。



最先端研究へと導く、プロフェッショナルたち

PUBLIC HEALTH

静岡県の医療・予防に関するデータを駆使し、社会健康医学の高度化に寄与する研究を進めている静岡社会健康医学大学院大学。ここでは、代表的な5つの最先端研究をご紹介します。

1

老年医学・高血圧学

高齢者特有の疾患の 病因解明を目指す 大規模地域住民コホート研究

コホート研究は、ヒト集団を長期間追跡することで疾患の要因を解明する研究です。生活習慣や遺伝的背景が異なる集団を対象にした諸外国での研究成果は、そのまま日本人に外挿することはできません。また、かつては稀有であった認知症やフレイルがありふれた疾患となるなど、日本人の特徴は刻々と変化しています。そのため、日本人の健康を守るためには日本人独自の最新の知見が必要であり、その点においてコホート研究は電気やガス、水道と同じく社会のインフラといえます。我が国で最も新しい静岡多目的コホート研究事業を舞台に、未だ日本人で発症頻度の高い脳血管障害や、高齢者のサルコペニア・フレイル、認知症の要因解明を通じて、健康寿命の延伸に資する研究を進めています。



田原 康玄 教授

研究者情報は
QRからチェック!



2

研究倫理・研究方法論

研究に関わるすべての 人にとって安全で 質の高い研究を目指す

社会健康医学の調査研究では、研究のテーマによらず、その研究データが持つ倫理的・法的・社会的な含意を考慮することが不可欠です。多くの場合、研究は参加者や社会に直接的な利益をもたらすものではないため、研究者には研究のリスクから参加者、社会、そして研究者を守る役割があり、そのための知識やスキルも必要です。これまでに、がん患者と医師による対話の参与観察、先端科学技術に対する一般市民や専門家集団の意識調査、医療機関のWEB情報、行政機関の公開情報など、多様なデータをさまざまな方法で分析してきました。質の高い安全な研究を目指して、よりよい仕掛けを一つ一つ皆さんと作っていきたくと考えています。



八田 太一 准教授

研究者情報は
QRからチェック!



3

ゲノム医学

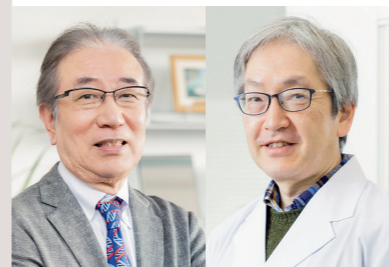
最先端ゲノム医学の知見を 健康医学の 分野に役立てる

近年、急速に医療現場のみならず健康医学の分野においても「遺伝」や「ゲノム医学」に関する知見が取り入れられるようになってきました。一方でこれらの情報についてはその特性を理解した取り扱いが必要です。未来の健康科学を担う人材には、このような知識を学び、研究に取り組んでいただきたいと考えています。

(白井教授)

研究実験室ではコホート研究で収集する検体の管理や生体分子測定、DNA抽出を行っています。老化バイオマーカーを探索する研究をしています。細胞培養装置・各種顕微鏡・セルソーター・デジタルPCRなど、定量的生物学実験を行える設備を活用し、人々の健康に役立てます。

(木下教授)



白井 健 教授 木下 和生 教授



研究者情報は
QRから
チェック!



4

聴覚言語学

難聴への適切な介入と 療育の基盤となる 聴覚・言語研究

難聴は、コミュニケーションの困難や社会的孤立などをもたらす恐れがあり、乳幼児にあつては言語・認知発達にも大きな影響を与えます。これは社会全体の健康・経済・福祉にもかかわる課題ともいえます。現代では人工内耳や補聴器等の技術的な選択肢もあり、早期発見と適切な介入・療育が問題解消に効果的だといわれていますが、その社会への実装は不十分です。私たちは、難聴者の聴覚・言語メカニズムに関する研究を行うほか、静岡県による先進的な聴覚スクリーニングや療育と連携しながら、社会システムの課題抽出や介入・療育効果の評価に関わる研究を行い、難聴者個人と社会への貢献を目指します。



高木 明 教授 古川 茂人 教授



研究者情報は
QRから
チェック!



5

ヘルスコミュニケーション

行動科学や行動経済学を 基盤に社会と直結した 社会実装研究を実施

ヘルスコミュニケーションは、社会における多様な人々の健康の維持増進の支援に取り組む上で、非常に強い武器になります。この分野では、行動科学や行動経済学を基盤に、行政やマスメディアとも積極的に協働し、対象となる方々を無理なく行動変容に繋げ、エビデンス・プラクティスギャップを埋めるための方法を開発と社会実装を進めています。また、自然災害に加え、新型コロナウイルスという未曾有の感染症蔓延を経験し、ますます需要が高まっているリスクコミュニケーションについても、最前線の現場と直結した研究を実施しています。研究のための研究に終わらず、人や社会に役立てるための学問であるDissemination&Implementation Scienceと一緒に深めましょう。



溝田 友里 准教授 山本 精一郎 教授



研究者情報は
QRから
チェック!



静岡多目的コホート研究事業

静岡を舞台に、国内外の叡智と人材を結集し、住民の健康づくりと予防医学研究を牽引する

県内のさまざまな地域において、住民を対象に詳細な健康調査を実施。調査結果や医療情報を活用し、疾病の原因を探求と、予防方法の開発・社会実装を目指すプロジェクト。



高齢社会に潜む健康課題を炙り出し解決策を探求する

社会が高齢化したことで、かつては稀有であった認知症やフレイルがありふれた疾患となるなど、我が国が抱える健康課題は刻々と変化しています。疾病の発症リスクを高めるヒトと社会の要因を明らかにすることで、高齢社会の健康課題の解決に資する研究を展開しています。



地域特性に合わせたコホートの設定と健康格差の解消

静岡県は東西に幅広く、東部と西部では健康課題が異なります。県内各地にコホートを設定し、そこで収集したデータを比較解析することで、健康格差を解消する鍵を探求しています。その成果は、静岡県内のみならず、同じ課題を抱える他の地域にも広く応用することができます。



知と人材を集約し、世界に羽ばたくコホートを築く

さまざまな専門性を持つ人材が集って研究に取り組めることがコホートの大きな特徴です。学術領域を越えて最先端の知と人材を国内外から呼び寄せ、世界に名だたるコホートを築き、静岡県民や日本国民はもとより、人類の安寧に貢献することを目指しています。

SKDB研究

静岡県民約260万人の医療ビッグデータを活用した健康エビデンスの創出

静岡県35市町の国民健康保険データベースを統合し、静岡県国保データベース(SKDB)を構築。医療・介護・健診データを組み合わせることで、疾患予防や健康寿命延伸などに向けた実践的な研究を推進しています。

疾患の発症予防や進行の研究

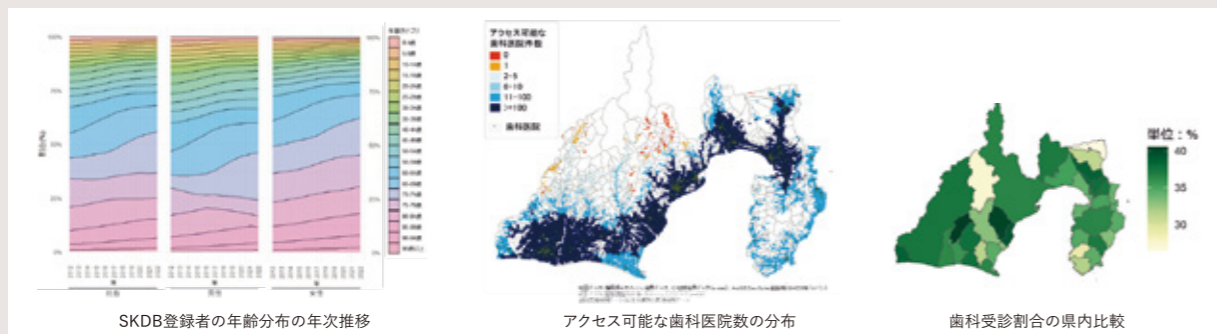
最長10年以上追跡が可能なSKDBを活用し、生活習慣病や多様な疾患の発症・進行リスクや治療・薬剤の効果を解析。介入研究が困難な医学・疫学的課題を解明し、研究成果を世界へ発信しています。

エビデンスに基づく健康政策の推進

市町の健康施策担当者と連携し、SKDBを活用して地域ごとの健康課題を明確化。得られたエビデンスを基に、実効性のある保健医療施策の提案・評価を行い、地域社会への還元を目指します。

健康の社会的決定要因へのアプローチ

わたしたちの健康は、居住・教育・就労・社会環境などの社会的決定要因の影響を強く受けます。SKDBを用いて地域ごとの健康課題と社会的決定要因の関連を明らかにする取り組みを進めています。



研究成果を実装し、社会を健康に

研究成果の社会実装・還元を積極的に進め、さまざまなアプローチから社会の健康増進・疾病予防に貢献します。

POINT1

ウデをまろう シズオカ

高血圧対策の一環として、静岡駅コンコースで血圧測定イベントを定期的に開催しています。今後、県内各地へと横展開する予定です。



POINT2

市町の健康づくり支援

御前崎市や沼津市、浜松市、裾野市などで、健康増進計画等の作成を支援しています。また、県内のさまざまな市町で専門職の指導や市民講演会の講師を務めています。



POINT3

プレコンセプションケアセミナーの開催

将来の妊娠や健康のために、今から正しい知識を身につけ生活習慣を整える「プレコンセプションケア」の普及活動を県内で展開しています。



POINT4

大学主催講演会

県民の健康づくりをサポートするために、予防に関するさまざまな内容のセミナーや公開講座を年3回開催しています。



静岡県と共同で実施した食生活・生活習慣のモニタリング調査と結果の社会実装

静岡県民限定! 食と生活習慣チェック

大規模オンライン調査で、県民の食生活や生活習慣の実態を把握するためのデータを収集。



栄養素摂取量をフィードバックし、食事を見直すきっかけに。

オンライン調査で収集した食事履歴の情報から、個人ごとに栄養素の摂取量を推定。結果をフィードバックすることで、健康づくりの動機づけに。



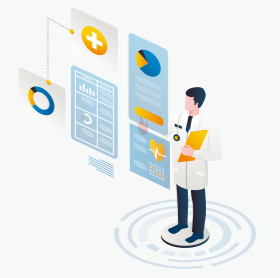
市町の保健事業担当者を対象としたデータ分析研修

オンライン調査の分析結果を施策形成のための基礎資料として提供。調査データを用いて、分析方法や結果を正しく解釈する方法などを学ぶ研修会を開催。



企業の健康経営を支援

企業や団体など、集団単位でのデータを分析する仕組みを導入。分析結果を提供することで、エビデンスに基づいた健康経営の推進を支援。従業員の健康意識の向上にも貢献。



地域に開かれた大学づくり

地域の環境づくり

静岡市のシェアサイクル事業「PULCLE (パルクル)」に協力し、サイクルポートを設置。地域の方々にもご利用いただき、喜ばれています。



大学敷地西側にバス待合所を設置

夜間や雨の日でも安全・快適に過ごせる環境となりました。教職員や学生とともに、地域の方々にもご利用いただいています。



隣接する小学校の6年生が見学に来ました

学長や研究科長が大学院について紹介しました。実際の講義の様子や研究室、実験室などの施設見学も行われました。



教育課程

学位・取得可能資格

社会健康医学研究科

本学は、社会健康医学研究科のみの単科の大学院です。

社会健康医学専攻博士前期(修士)課程 標準修業年限2年

学位:修士(社会健康医学) / Master of Public Health (MPH)

社会健康医学は幅広い分野に跨がる学問であるため、本学ではさまざまな分野の学士課程の修了者や社会人を対象に、国際的に通用する高度な社会健康医学の学識を身につけた人材を養成しています。医師などの6年制大学の卒業生や既に博士号を取得されている方であっても、個々の専門性を超えた幅広い視点から人々の健康を守るための学識の修得を目指して進学されています。

特別コース

遺伝カウンセラー養成コース

修士(社会健康医学) 認定遺伝カウンセラーの受験資格を得ることができます。

聴覚・言語コース

修士(社会健康医学)

社会健康医学専攻博士後期課程 標準修業年限3年

学位:博士(社会健康医学) / Doctor of Philosophy in Public Health (Ph.D.)

社会健康医学の領域におけるさまざまな課題に対し、社会健康医学の学識に基づいて課題解決の方策を提示し、社会に実装する能力のほか、社会健康医学の教育研究を先導する高度な学術性、指導的・先導的役割を担うための学識、教養、並びに高い倫理観を身につけた人材を養成しています。

単位構成図

社会健康医学専攻 博士前期(修士)課程

合計 42単位

遺伝カウンセラー養成コース

合計 48単位

聴覚・言語コース

合計 42単位

社会健康医学専攻 博士後期課程

合計 16単位



カリキュラムスケジュール | 博士前期(修士)課程

● 1時限目 9:00~10:30 ● 2時限目 10:40~12:10 ● 3時限目 13:00~14:30 ● 4時限目 14:40~16:10 ● 5時限目 16:20~17:50 ● 6時限目 18:30~20:00

1年次前期	前半						
	月	火	水	木	金	土	日
1時限目						基礎医学講座	
2時限目						健康・医療ビッグデータ概論	
3時限目				社会健康医学概論*1		環境健康科学・産業衛生学概論*1	
4時限目				医科遺伝学概論		文献検索法・文献評価法	
5時限目				プレゼンテーション/メタ分析スキル		医療統計学概論*1	
6時限目			聴覚解剖・生理学概論	特別研究(リサーチミーティング)			
後半							日
1時限目						質的研究法	
2時限目				臨床遺伝学		ヘルスコミュニケーション概論	
3時限目				社会健康医学概論*1		環境健康科学・産業衛生学概論*1	
4時限目				疫学概論		社会健康医学倫理概論	
5時限目				健康政策・医療経済学概論		医療統計学概論*1	
6時限目			聴覚心理学概論	特別研究(リサーチミーティング)			

1年次後期	前半						
	月	火	水	木	金	土	日
1時限目			医科遺伝学演習*3			栄養疫学・ヘルスプロモーション	聴覚障害学
2時限目				遺伝カウンセリング		臨床研究概論	
3時限目				医科遺伝学特論		高齢者ケア概論	
4時限目				健康医療社会学*1		公衆衛生危機管理論*1	知覚情報処理演習*2
5時限目			医科遺伝学演習*3	行動医学		医療統計学特論*1	
6時限目			聴覚検査法	特別研究(リサーチミーティング)			
後半							日
1時限目			医科遺伝学演習*3		遺伝情報学演習*3	社会疫学	言語・認知・発達学
2時限目						健康情報学	言語・聴覚学特別演習1*2
3時限目				システムティックレビュー概論	生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	疫学・ゲノム疫学特論	知覚・生体計測演習*2
4時限目				健康医療社会学*1		公衆衛生危機管理論*1	
5時限目			ゲノム医学演習*3	疫学研究・臨床研究特論		医療統計学特論*1	認知科学概論
6時限目			聴覚補償技術	特別研究(リサーチミーティング)			

*1:前半・後半合わせて全15回開催。*2:聴覚・言語コースの学生のみ履修可。*3:遺伝カウンセラー養成コースの学生のみ履修可。*4:特別研究(修士論文・課題研究)は、研究指導教員と日程を調整して実施。「質的研究法特講(M-GTA特講)」は夏季集中講義として開催。 ※授業科目及び開講日時は変更となる場合があります。

2年次前期	前半						
	月	火	水	木	金	土	日
1時限目							
2時限目			遺伝カウンセリング実習*3			混合研究法	
3時限目				高齢者運動・リハビリテーション論		臨床試験解析学	
4時限目				健康・医療ビッグデータ特論	遺伝カウンセリング演習*3	健康政策・医療経済学特論	音声言語科学
5時限目				ヘルスコミュニケーション特論		死生学	
6時限目			聴覚療育・リハビリテーション論	特別研究(リサーチミーティング)			
後半							日
1時限目							
2時限目				遺伝カウンセリング実習*3		社会健康医学倫理特論	
3時限目				循環器臨床・疫学研究概論		観察研究解析学	
4時限目					遺伝カウンセリング演習*3	高齢者ケア特論	聴覚健康政策論
5時限目						ゲノム医学(疾患と遺伝子)	
6時限目				特別研究(リサーチミーティング)			

2年次後期	前半						
	月	火	水	木	金	土	日
1時限目							
2時限目							オーラルヘルス・プロモーション
3時限目				ヘルスケア・アソシエーション論			医療・ケア組織論
4時限目						遺伝カウンセリング演習*3	
5時限目							
6時限目				特別研究(リサーチミーティング)			

Master of Public Health (MPH) 社会健康医学専攻 博士前期(修士)課程

[募集人員] 10名(特別コース若干名を含む) [取得学位] 修士(社会健康医学) [Master of Public Health (MPH)]

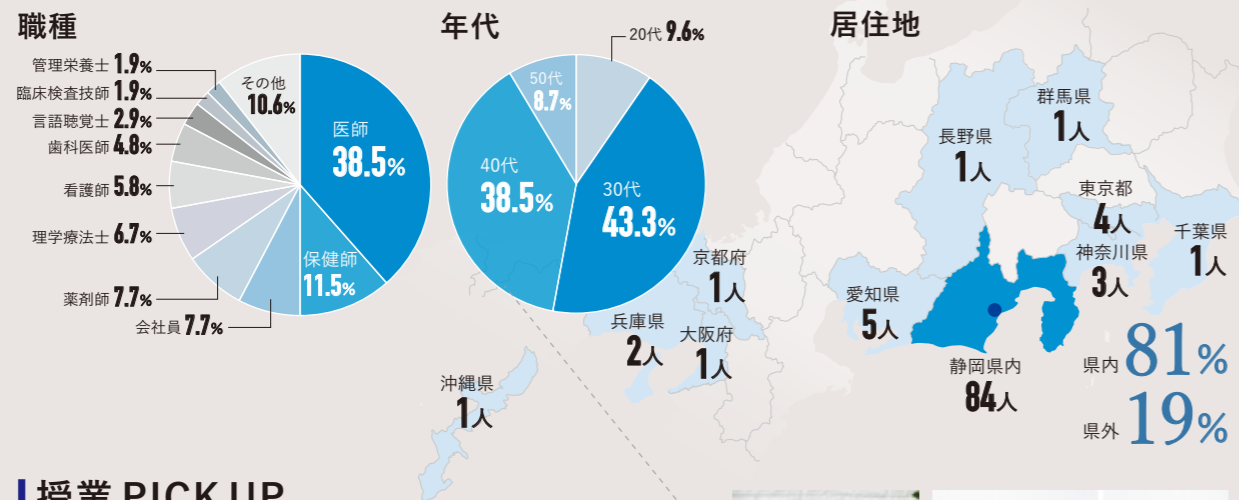
プロフェSSIONALに求められる社会健康医学の学識を身につける

医学はもとより自然科学や情報学、人文社会科学までを含む社会健康医学を学ぶ本大学院では、医師や看護師、薬剤師、保健師等の医療や保健、福祉の現場で活躍されている方はもちろんのこと、社会健康医学に関心を持たれているあらゆる分野の出身者を歓迎します。

養成する人物像

最先端の社会健康医学研究を推進するとともに、研究成果を社会に実装する担い手として、地域医療で先導的役割を果たす **高度医療専門職**、地域保健の最前線で健康増進施策を担う **健康づくり実務者** を育成しています。

本学入学者の内訳



授業 PICK UP

疫学概論

社会健康医学を理解するための基礎を固める

疫学研究の妥当性を評価するための基本的な知識を身につけ、研究デザインごとに異なる論文の読み方を実践的に学びます。疫学論文を批判的に読む技術は、社会健康医学研究を立案し、科学的根拠に基づいて研究成果を社会実装する上で将来に渡って役立ちます。



健康政策・医療経済学概論

健康政策と医療経済学の基礎を体系的に学ぶ

公的医療保険制度をはじめとする健康政策の全体像を理解し、持続可能な制度構築に向けた政策展開について学びます。重要な健康政策のテーマについて、医療経済学の視点から制度の仕組みや課題を深く掘り下げ、評価分析を通じて多角的に考察することを目指します。



ヘルスコミュニケーション概論

健康情報をわかりやすく適切に伝えるための手法を学ぶ

健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について学びます。対象の調査・分析結果に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略についても理解を深めます。



遺伝カウンセラー養成コース

[募集人員] 若干名(最大2名) [取得学位] 修士(社会健康医学) [Master of Public Health (MPH)]

遺伝医療の観点から心理的・社会的に患者を支援する

遺伝カウンセラーは、遺伝医学の専門知識を持ち、患者や家族に遺伝に関する情報を提供し、心理的・社会的なサポートを行う専門職です。近年、遺伝医療の進展により、がん・遺伝性疾患・生殖医療などの分野で遺伝カウンセリングの需要が高まっています。本コースでは、遺伝カウンセラーとして必要な知識・技術・倫理観を身につけ、社会に貢献できる専門家を育成します。本コースは、日本人類遺伝学会および日本遺伝カウンセリング学会の認定を受けた認定遺伝カウンセラー養成課程であり、修了後は認定遺伝カウンセラー試験の受験資格を取得できます。



求める人物像

急速に臨床現場に実装されている最先端の遺伝医療に対応できる高度な専門的知識とスキルおよびコミュニケーション能力を身につけ、患者・血縁者と遺伝医療とを結ぶ橋渡し役として活躍する意欲のある方を求めます。

キャリアパス

近年、ゲノム医療や遺伝関連医療の臨床実装が進む中で、認定遺伝カウンセラーの重要性がますます高まっています。しかし、日本における認定遺伝カウンセラーの数は、需要に対して大幅に不足しています。医療機関だけでなく、ヘルスサイエンス関連企業や行政機関でも求められており、遺伝医療の推進に不可欠な専門職として幅広い分野で活躍が期待されます。

※資格種別:民間資格(日本遺伝カウンセリング学会及び日本人類遺伝学会が共同で認定)
試験実施主体:認定遺伝カウンセラー制度委員会
受験資格:遺伝カウンセラー認定養成課程を設置した大学院を修了し、かつ、受験申請時に日本遺伝カウンセリング学会または日本人類遺伝学会のいずれかの会員歴が2年以上継続している者

認定遺伝カウンセラー※とは

遺伝医療を必要としている患者や家族に適切な遺伝情報を提供し、心理的・社会的サポートを通して当事者の自主的な意思決定を支援する専門職です。医療技術の提供や研究とは異なる独立した立場で、患者支援に従事します。

授業 PICK UP

平日の講義や実習に参加していただきます。具体的なスケジュールについては、個別にご相談ください。

医科遺伝学特論

疾患の原因遺伝子を探るアプローチを学ぶ

さまざまな疾患を事例に、臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義について講義します。また、疾患の遺伝的背景について、環境因子との係わり、原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて学びます。

遺伝カウンセリング実習

医療機関での実習を通して実践力を身につける

提携医療機関における実習を通じて、実践的な遺伝カウンセリングを学びます。遺伝カウンセリングの場への陪席やカンファレンスへの参加を通じて、現場に必要なスキルを身につけます。

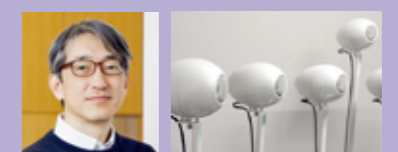
聴覚・言語コース

※本コースを修了したことをもって、医療に従事することはできません。本コースは言語聴覚士の養成課程ではないため、本コースを修了しても言語聴覚士の受験資格を得ることはできません。

[募集人員] 若干名(最大3名) [取得学位] 修士(社会健康医学) [Master of Public Health (MPH)]

「きこえ」「ことば」を専門的に学び聴覚障害者を適切に支援する

先天性重度難聴であっても、適切な治療・介入で音声言語獲得が可能な時代となっています。音声言語獲得の有無はその後の学習、社会生活の質に大きな影響を及ぼします。また、加齢性難聴の放置は高齢社会においては社会的孤立、認知症発症の最大の危険因子となります。本コースでは、聴覚、音声認知、言語発達、発話という高次の感覚・認知機能も含めた知識を深め、乳幼児難聴のスムーズな音声言語獲得をめざす介入法や加齢性難聴のケアのあり方などを学びます。



求める人物像

医師、言語聴覚士、研究者のほか、教育や保健福祉分野で難聴児や言語発達遅滞児に関わる方を対象とします。聴覚障害への課題意識を持ち、聴覚補償、言語発達、認知の仕組みを体系的に学び、実践能力を習得する意欲のある方を求めます。

キャリアパス

本コースでは基礎科学・工学的視点も含めた聴覚・言語領域の履修プログラムを提供します。卒業後は、学びを通して得られる深く掘り下げられた知見を基盤として、聴覚障害に関わる医療関係者、教育・保健福祉関係者、研究者として、指導的な立場での活躍が期待されます。

授業 PICK UP

聴覚障害学

聴覚障害の種別と障害への対応を学ぶ

聴覚障害には伝音難聴、感音難聴、後迷路性難聴などがあり、その他、音は聞こえるが言葉がわからないという中枢が関与する音声認知、音声処理障害などがあります。先天性の重度感音難聴に対する人工内耳は音声言語獲得に重要であり、老人性難聴に対する補聴器は認知症、孤立の対策として重要であることを理解して障害への対応を学びます。

聴覚心理学概論

音の知覚を構成するメカニズムを習得する

一口に「きこえ」といっても、それはさまざまな知覚的要素から支えられています。そういった要素を分析的・定量的に理解して相互に結びつけるために、生理学の知見と対応させながら聴覚心理学(心理物理学)の基礎的知識を体系的に学びます。例えば、聴覚における音のスペクトルの分析機構が、音の大きさやピッチの知覚だけでなく、多数話者の中での聞き取りにも関わっていることも理解できるようになります。

世界をもっと健康にするために、視野を広げ、学ぶ意欲を涵養します。

社会における健康課題とその対策について、幅広い視野から考究するための基礎的知識を身につけるために、さまざまな専門家が予防医学の最先端についてオムニバス方式で講義を行います。第1回目は、宮地良樹学長が『静岡県の「健康長寿」を考える』をテーマに、健康の定義、健康を取り巻く国及び地方の現状、静岡県の特性について講義を行います。本学副理事長や副学長も講義を担当します。



健康情報学

健康・医療問題の解決を支援する情報のあり方について、情報を「つくる・つたえる・つかう」の視点から概説します。

副理事長 中山 健夫先生



未病医療

非感染性疾患の病因の今日的な理解と、先制医療、未病医療など新しい医療のあり方について概説します。

副理事長 伊藤 裕先生



理論と実証

血栓症を例に、基礎医学と健康社会医学の連携の可能性を論じます。

副学長 浦野 哲盟先生

エビデンスを築くために必要な統計学を体系的に学びます。

統計学の深遠な学識は、異なる集団の多様かつ複雑なデータを洞察し、精緻で確かな根拠を導き出すための知的基盤を形成します。データの規模や内容ごと、また目的に応じて最適な解析方法を選択し、得られた結果を正しく解釈するための知識を、演習を織り交ぜて実践的に学びます。



社会健康医学に必要なとされる統計理論を体系的に

観察研究や臨床研究に必要な統計の理論と具体的な分析方法について、体系的に学びます。



統計解析の実践を交えて

実際のデータを用いた演習から理論の理解を深め、分析スキルを修得します。



医療ビッグデータ解析への応用

先進的な事例の学びから、医療ビッグデータ解析の全貌を理解します。

その他の主な科目

▶ 文献検索法・文献評価法

文献検索の方法と疫学、EBM(根拠に基づく医療)の知識を身につけます。各種の健康・医療情報を検索し、それらを多角的に評価する方法についても学び、演習を交えて理解を深めます。

▶ プレゼンテーション・ライティングスキル

研究成果の発表や研究資金獲得のためのプレゼンテーション、学術論文、報告書の執筆に当たった効果的な技法について講義を行うとともに、演習形式でプレゼンテーションを行いスキルの獲得を目指します。

▶ 環境健康科学・産業衛生学概論

自然・社会・労働・作業環境と人間(労働者)の健康の保持・増進を図るために、持続可能な開発目標(SDGs)という環境と労働の未来を目指した、社会健康医学の専門家に求められる基礎知識について学びます。

▶ 行動医科学

行動科学理論に基づいて人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について、認知行動療法やヘルスマネジメントなどを交えた講義を行います。

▶ 死生学

緩和医療、看取り、死別悲嘆、死を語りあうムーブメント、臨床宗教師の取り組み、生殖医療と生命倫理など、現代社会の人の生き死ににまつわる多様な課題について学びます。

▶ 社会健康医学倫理概論

社会健康医学研究に取り組む研究者には倫理的判断が求められます。本講義では、医療倫理、公衆衛生倫理、研究倫理のトピックスを用いて、研究実施の基礎となる倫理的・哲学的な考え方を身につけます。

▶ 医科遺伝学概論

疾病の発症には環境要因のみならず遺伝要因も影響します。遺伝学の基礎から最新の遺伝医学まで系統的に学ぶことで、疾病の遺伝的要因について理解を深めます。

教育研究制度の特色

1 豊富な研究実績を持つ教授陣による少人数制の授業

社会健康医学専門職教育の基本5領域(疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医学・ヘルスマネジメント学、健康管理・政策学)や関連する領域において、世界的に活躍している専任教員が講義と研究指導を担当します。また、一部の講義は、その内容に造詣の深い他大学の教員を招聘することで教育内容の充実を図っています。



2 オンラインやオンデマンドでの遠隔授業と教育研究指導

仕事の都合等により教室で受講できない場合は、オンラインで授業に参加することができます。また、授業の録画を視聴するオンデマンドでの受講も可能です(オンデマンドでの受講回数には制限があります)。修士課程での研究についても、適宜オンラインでの指導を取り入れ、指導教員との綿密なやり取りを実現します。



静岡SPHの「修士論文・課題研究」

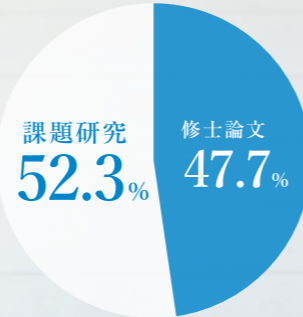
探究心が、社会健康医学の新たな可能性を拓く。

2年をかけて健康課題の解決に資する研究に取り組み、修士論文または課題研究として仕上げます。

年間スケジュール

1年次	2年次
4月 8月	4月
研究テーマの相談	研究の実施 中間発表会での意見を踏まえた 研究計画の見直し、データ収集と分析、 研究成果の取りまとめ等
8月 末	11月
研究指導教員の決定 修士論文または課題研究の選択 初回	修士論文/課題研究報告書の作成
10月	9月
研究テーマ検討、研究計画の立案 研究の実施	修士論文または課題研究の選択 確定
2月	12月
文献調査、先行研究の調査、 データの収集と分析等	修士論文/課題研究の要旨の提出
3月	1月
中間発表会	修士論文/課題研究報告書の提出
	2月
	特別研究発表会
	3月
	修了認定・学位の授与

修士論文・課題研究の割合



修士論文

修士課程で取り組んだ社会健康医学に関する学術的研究成果であって、学術雑誌に投稿することを前提とし、修士課程修了時に相当のレベルに仕上がっているもの。

課題研究

修士課程で取り組んだ社会健康医学分野の課題解決に実践的に寄与する研究やフィールド調査の結果をまとめたもの。



修士論文

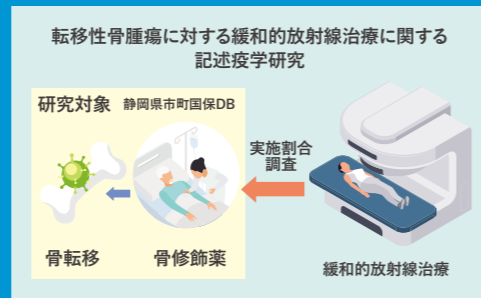
※掲載されている学年は撮影時のものです。

Case 01 医師(放射線治療医) | 転移性骨腫瘍に対する緩和的放射線治療に関する記述疫学研究



宮坂 勇平さん
修士課程 2年*

がんの骨転移に対する治療のひとつに緩和的放射線治療があります。大学院では、静岡市町国保データベースを用いて、骨転移があり薬物治療が開始された患者さんに、放射線治療が行われている割合を調査しました。その結果、静岡県内の地域毎に実施割合を比較しても大きな差はないものの、病院毎に比較すると大きな差があることがわかりました。

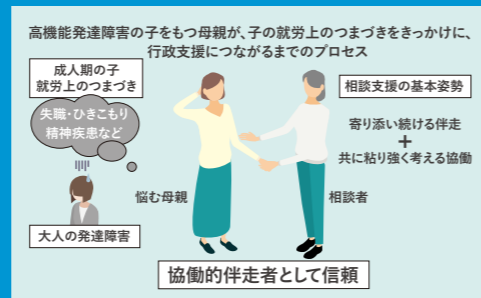


Case 02 行政保健師 | 高機能発達障害の子をもつ母親が行政支援につながるまでのプロセス



大嶋 美智子さん
修士課程 2023年度修了

発達障害の早期支援は行政の責務ですが、就労上のつまずきを契機に行政支援につながる高機能発達障害者が増えています。そこで、成人期の子の母親が子の就労上の困難をきっかけに行政支援に至るプロセスを理論化しました。深刻な二次障害後に速やかに支援につなげるためには、信頼できる民間相談者の協働的伴走が重要であり、母親に寄り添いながら粘り強く問題解決を支援する姿勢が求められることがわかりました。



課題研究

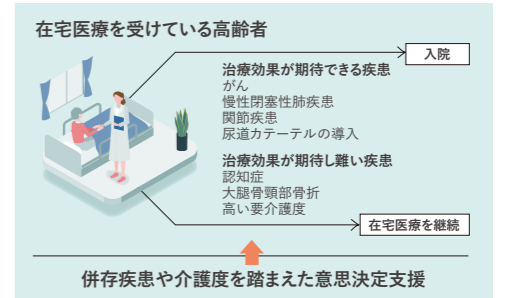
*掲載されている学年は撮影時のものです。

Case 01 医師(訪問診療医) | 訪問診療患者における入院リスク因子の検討



宮地 紘樹さん
修士課程 2年*

定期的な訪問診療を利用する患者では、癌、COPDや尿道カテーテル使用など急性増悪時に治療効果が期待できる疾患がある場合は入院が選択されやすく、認知症や大腿骨頸部骨折など治療効果が期待できない疾患では、在宅療養が継続される傾向が認められました。また、要介護度が高くなるほど入院に至らない傾向も認められ、併存疾患や介護度等を踏まえた意思決定支援が不必要な入院の抑制につながる可能性が示唆されました。

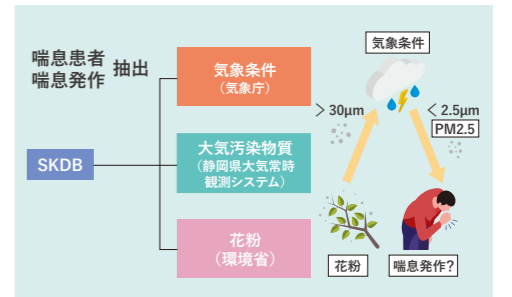


Case 02 医師(耳鼻咽喉科医) | 小児喘息患者の喘息発作とPM2.5濃度・気象条件・花粉の関連について



大庭 亜由子さん
修士課程 2年*

気象条件や大気汚染物質がアレルギー疾患の増悪に関与する可能性について研究しました。日本の大気汚染は改善傾向にあるものの、PM2.5濃度はWHO基準を満たさず、スギ花粉への感作率も増加しています。静岡市町国保データベース(SKDB)とオープンデータを活用し、小児喘息発作とPM2.5濃度の関連を、気象条件や大気汚染物質、花粉量を考慮しながら分析しました。

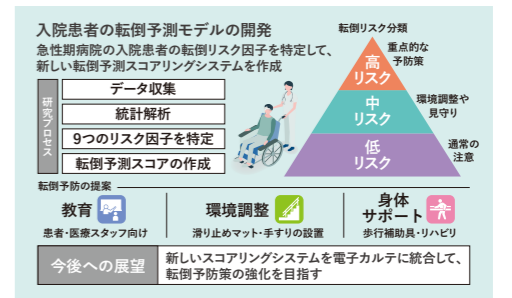


Case 03 看護師 | 急性期病院における転倒予測スコアの開発と妥当性評価



齋藤 千紘さん
修士課程 2023年度修了

急性期病院に入院している患者さんの年齢や身体の状態をもとに転倒リスクを特定し、それを3段階に分類するスコアリングシステムを開発しました。このシステムを活用することで、転倒リスクの高い患者さんに事前に予防策を講じ転倒を防ぐことで、入院期間の延長や治療費の増加を抑え、患者さんの安全確保に貢献できる可能性が示されました。



Case 04 保健師 | 定期的な歯科受診に関連する因子の探索



岡 利津子さん
修士課程 2年*

静岡県内に住む40～59歳の方を対象にインターネットモニター調査を行いました。4,000人を対象に断面調査を行って、定期的な歯科受診行動に関連する因子を探索し、歯科受診率向上のための施策を検討しました。その結果、歯科受診やセルフケアが糖尿病・循環器疾患などの予防や時間・費用の節約になることを伝えること、行政・歯科医療機関など提供側の環境整備と関係機関の連携を図ることの重要性を確認できました。



CAREER MODEL キャリアモデル

PUBLIC HEALTHを学んだ先に見える未来



MODEL 01
医療の仕組みを見つめ直し、
医療の未来をデータで拓く

橋爪 秀夫さん 修士課程 2022年度修了

入学前

臨床医・教育・管理職の経験

皮膚科専門医として臨床と教育に従事し、公立病院の管理職も経験。医療提供の仕組みを理解し、現在の医療課題を実感するようになりました。

在学中

新たな学びへの挑戦

医学部時代には多くを学べなかった疫学や高齢者医療について知り、社会全体の医療課題に目を向けるようになりました。

卒業後

皮膚科学×データサイエンス

静岡県国保データを活用し、褥瘡や高齢者医療の疫学研究を進め、ビッグデータを用いた新しい医療の可能性を模索しています。

MODEL 02
科学的根拠に基づく医療を
追求し、現場で活かす力を

齊藤 喬さん 修士課程 2023年度修了

入学前

ヘルスリテラシーを
高める必要性を

患者の社会的課題を理解し、健康の社会的決定要因を学ぶ必要性を感じ、ヘルスリテラシー向上のため入学を志望しました。

在学中

修士論文で
臨床疑問の解決に取り組む

研究を通じ、臨床疑問を研究に昇華し、統計解析を行いながら科学的証拠を創出する能力を養い、英文誌への投稿を経験しました。

卒業後

患者データベースを構築し、
解析研究を実施

所属施設で患者データベースを作成し、解析研究を実施。臨床現場に役立つ科学的証拠の創出を目指し、同僚と研究を続けています。

MODEL 03
社会健康医学の知見を活かし、
県民の健康寿命延伸へ

種村 崇さん 修士課程 2年*

入学前

県民の健康寿命の
さらなる延伸のために

行政歯科医師として、社会健康医学の5領域を学び、より広い視野で県の保健医療施策に活かすために入学しました。

在学中

さまざまなバックグラウンドを
持つ同期とともに学ぶ

授業はアクティブ・ラーニングを中心に学びました。EBPM（エビデンス・ベース・ポリシー・メイキング＝証拠に基づく政策立案）に関心があり、新たな領域での研究に挑戦し、政策評価研究に取り組みました。

卒業後

大学院で得た
知見を還元する

この2年間で学んだ社会健康医学の知見を、実務者として県の政策や地域に還元し、県民の健康寿命の延伸に貢献していきたいです。

静岡社会健康医学大学院大学には、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まります。それぞれの専門性を基盤に本学で学ぶ学生たちは、社会健康医学を学んだ先どのような未来を見据えているのか。ここでは、6名の学生のキャリアモデルをご紹介します。

*掲載されている学年は撮影時のものです。



MODEL 04
研究と臨床をつなぎ、
看護の現場に新たな視点を

米澤 彩実さん 修士課程 2023年度修了

入学前

臨床に還元できる
学びの場を求めて

臨床看護師として研究の難しさを感じ、幅広い学びを通じて知識を深め、研究と臨床の双方に活かせることを入学を決心しました。

在学中

臨床疑問をもとに、
課題研究に取り組む

集中治療室で重症患者を看護し、発症予防の重要性を痛感。講義で得た知識を基に、病院のカルテデータを分析して課題研究に取り組みました。

卒業後

患者さんに還元できる
研究を続けていきたい

大学院での学びは看護や修了後の研究に活かしています。課題研究を進展させ、看護師として循環器疾患の予防に貢献する研究を進めていきたいです。

MODEL 05
データを活用し、科学的
根拠に基づく健康施策を推進

塩谷 祐実さん 修士課程 2023年度修了

入学前

データの読み方がわからず
健康課題の根拠に疑問

数や割合だけで課題や重点取り組みを判断することに疑問を感じ、疫学や統計を学び、健康課題や重点取り組みを提案したいと考えました。

在学中

モニタリング調査のデータを
活用して研究に取り組む

静岡県と共同で実施したモニタリング調査で収集した住民の栄養や食生活のデータを活用し、肥満と食事の速さの関連について研究しました。

卒業後

根拠を持って事業を
運営することを心がけて

情報の正確性や根拠を確認し、自信を持って事業に携われるようになりました。モニタリング研究のデータを活用し、健康増進計画策定を準備中です。

MODEL 06
遺伝医療の最前線で学び、
意思決定を支える力を磨く

加藤 友里さん 修士課程 1年*

入学前

遺伝カウンセラーとして意思
決定を支える力を身につけたい

助産師として出生前診断や先天性疾患の支援の必要性を感じ、臨床経験を学びにつなげ、妊娠期から出生後まで家族を支えるため進学しました。

在学中

分子生物学の知識から
研究の社会実装まで学ぶ

遺伝の分子レベルの知識から伝え方、統計学、質的研究、社会への還元まで、ミクロからマクロにわたる幅広い学びに取り組みました。

卒業後

認定遺伝カウンセラー
試験合格を目指して

本学で学んだ「相手の立場を考えた伝え方」と「学び続ける姿勢」を大切に、静岡県の遺伝医療に貢献していきたいです。

Doctor of Philosophy in Public Health (Ph.D.) 社会健康医学専攻 博士後期課程

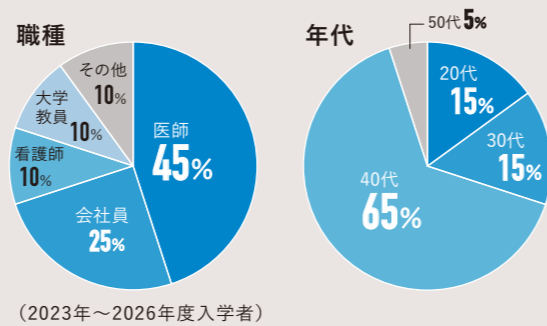
[募集人員] 2名 [取得学位] 博士 (社会健康医学) [Doctor of Philosophy in Public Health (Ph.D.)]
[修了要件] ・15単位の履修 ・博士論文の最終審査に合格 標準修業年限3年

社会健康医学の最前線において未解明の課題に果敢に取り組む研究者を育成
公衆衛生学のコア5領域はもとより、最新の生命科学や情報解析学など関連領域の学識を身につけ、社会が必要とするエビデンスの導出とその社会実装を通じて広く人々の健康に貢献できる能力を修得した研究者を育成します。

求める人物像

- 健康と医療・環境に対する高い関心と探究心を有し、新たな視点で課題を抽出するとともに、その解決のために必要な研究の立案と遂行に意欲のある者
- 社会健康医学の最新の研究成果や知見の社会実装を通して、健康課題の解決に取り組む意欲のある者
- 社会健康医学の博士前期課程（修士課程）修了に相当する学識及び語学力をさらに向上させ、研究やその成果の社会実装を介して学術領域の発展に寄与する意欲のある者

本学入学者の内訳



カリキュラム

基礎科目	社会健康医学特講	1年次	1単位	社会健康医学の最先端研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学びます。
特別演習科目	博士課程セミナー1	1年次	1単位	社会健康医学研究の方法、研究成果、成果の社会実装プロセスを理解・吟味することで視野を広げ、洞察力及び学際性をふまえた研究遂行能力を養います。
	博士課程セミナー2	2年次	1単位	
	博士課程セミナー3	3年次	1単位	
特別研究科目	社会健康医学研究	1～3年次	12単位	社会健康医学における具体的な課題を自ら設定し、当該領域の学術的発展に寄与するとともに、実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を行います。

※優れた研究業績を挙げた場合は、課程2年次に学位審査を申請することができます。

履修推奨科目

本学修士課程を修了しておらず、また他の大学院において公衆衛生学のコア領域を学修していない方には、修士課程の開講科目のうち以下の科目の履修を推奨します。

- 社会健康医学概論 ■ 疫学概論 ■ 臨床研究概論 ■ 医療統計学概論 ■ 環境健康科学・産業衛生学概論
- ヘルスコミュニケーション概論 ■ 健康・医療ビッグデータ概論 ■ 医科遺伝学概論 ■ 基礎医学講座（非医療系の修士課程の出身者のみ）

出願資格

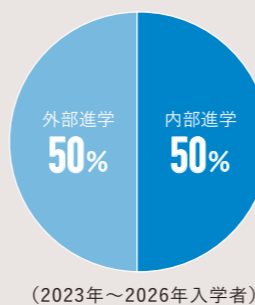
※修士の学位又は専門職学位を有する者（取得見込みの者を含む）
※医学、歯学、薬学、獣医学の6年制の教育課程を修了した方は、個別の出願資格審査のうえ出願が可能となります。
※出願前に、指導予定教員との出願前相談が必要です。詳細は学生募集要項をご覧ください。

キャリアパス

国内外の教育研究機関や研究所、医療機関等において、社会健康医学の最先端研究と成果の社会実装に取り組むことで、我が国のみならず世界が抱える健康課題の解決に果敢に取り組む高度な研究者として活躍することが期待されます。

- アカデミアで社会健康医学を考究するとともに後進の育成に携わる教育研究者
- 国や地方自治体の研究機関において行政施策の立案に必要なエビデンスの導出や施策の社会実装に資する研究者
- 医療機関において臨床医療に携わりつつもその環境を活かして最先端の社会健康医学に取り組む医師等に代表される臨床研究者
- 企業において臨床・予防医療に資する薬剤、製品、サービスの開発と社会実装に資する研究者

内部進学・外部進学の割合



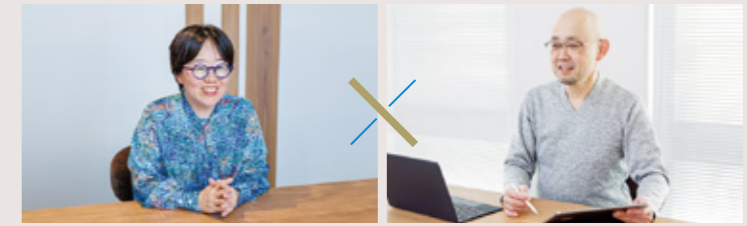
学生指導教員

さまざまな専門性を持つ複数の教員が研究を指導する体制を構築。学術領域を越えた幅広い研究指導から、社会健康医学を先導する研究成果が生まれています。

*掲載されている学年は撮影時のものです。

博士課程へ進学した理由

修士課程で基礎的な研究スキルを身につけましたが、研究のマネジメントやアセスメントに関する経験が不足していると感じました。博士課程では授業が少なく、より多くの時間を研究に充てることができ、内部進学の特長を最大限に活かして、さらなるスキルアップができると考えました。



医師(臨床検査科) 朝比奈 彩さん 博士課程2年*

教授 田原 康玄

研究テーマ・概要

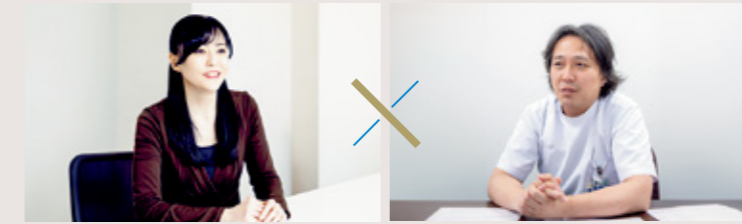
地域住民コホートの試料と情報を用いて、Y染色体欠失と総死亡・循環器疾患発症の関連を研究しています。遺伝子研究に挑戦したいという夢が叶いましたが、期待通りに進まないことも多く、苦戦していますが、これもまた良い経験です。

指導教員との研究の進め方

週1回の研究ミーティング「たばらボ」では、田原先生と学生・研究者が集まり、研究発表や議論を行います。田原先生の疫学・ゲノムの専門的視点からのアドバイスは貴重で、他の研究に触れることも学びになります。研究の進捗確認やマイルストーンとしても有意義であり、大変助かっています。

仕事との両立

市中病院の検査専任医師として管理業務を担い、仕事と研究の両立を目指しています。医療現場の課題を見つけ、学んだことを職場に還元しています。データ解析や論文執筆支援に自信を深め、遺伝カウンセリング外来の立ち上げなどゲノムリテラシー向上にも取り組んでいます。



准教授 溝田 友里

医師(産婦人科医) 市川 義一さん 博士課程2年*

博士課程へ進学した理由

子宮頸がんワクチンの接種勧奨中止を通じ、科学的エビデンスだけでは行動変容や行政判断を促せないと感じました。社会実装や行動変容を促す科学的なエビデンスを導出できる研究者を目指し、博士課程へ進学を決意しました。

研究テーマ・概要

AYA世代を対象に、子宮頸がん予防行動の促進・阻害因子を明らかにすることで、効果的な勧奨プログラムを開発することを目的としました。質問紙調査を行い、子宮頸がんに対する意識、社会背景、情報リテラシーと予防行動意図の関連を分析、分析結果に基づいて開発した集団特性に応じた情報提供方法の有効性を、ランダム化比較試験で検討しています。

指導教員との研究の進め方

平日の夜と土曜日に指導教員とのオンライン会議を定期的に行いながら研究を進めています。日々指導教員がそばにいる環境ではありませんが、試行錯誤する時間と指導・フィードバックを受ける時間が交互にあることで、自立した研究者として成長する学びを得ています。

仕事との両立

修士課程では講義や課題も多く、スケジュール調整が大変でした。博士課程では講義単位の少ない自己裁量の時間が増えますが、仕事に追われ研究時間の確保が難しくなるため、自ら時間を作り出す工夫が求められます。

博士課程へ進学した理由

急性期病院で臨床医療に専念していましたが、医療を近視的に捉えていることに気づきました。さらに、手技や判断力の伸びが停滞しつつあり、より広い視点で医療を俯瞰する必要性を感じ、社会健康医学を学ぶことを決意。修士課程で幅広く学んだ後、知見を深め、リサーチマインドを養うため博士課程に進学しました。



医師(産科医) 竹原 啓さん 博士課程1年*

講師 佐藤 洋子

研究テーマ・概要

妊婦を対象としたランダム化比較試験は倫理的に難しく、周産期研究は観察研究が中心です。修士課程ではレセプトデータを用いた観察研究を行いました。そこで、博士課程では、日本産婦人科学会の周産期レジストリを用いて、「常位胎盤早期剥離の発症リスク因子と周産期予後」に関する研究を行い、母児の予後改善に貢献したいと考えています。

指導教員との研究の進め方

基本はオンラインで研究相談を行うように努めていますが、オンラインも利用しつつフレキシブルに対応しています。研究に行き詰ったり、わからないことはメール等でも質問させて頂いています。いつも、快く的確に対応して頂き、大変助かっています。

仕事との両立

産科は当直や長時間勤務が多く、研究時間を確保することが難しいですが、隙間時間を活用し少しずつ進めています。職場の理解を得て金曜午後は研究に専念でき、仕事と研究がリンクすることでモチベーションを維持し、業務の質も向上していると感じています。

教員紹介

Teacher's *introduction*

少人数制で叶える、確かな成長

令和8年4月1日現在



教授/学長 宮地 良樹
Yoshiki Miyachi



副学長 浦野 哲盟
Tetsumei Urano



教授/研究科長 臼井 健
Takeshi Usui
主な担当 社会健康医学概論、遺伝カウンセリング、ゲノム医学演習
授業科目 精密医療実現のためのゲノム医療の推進及び遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究



教授/副研究科長 山本 精一郎
Seiichiro Yamamoto
主な担当 ヘルスコミュニケーション概論・特論、行動医学、医療統計学概論・特論
授業科目 健康政策への市民参画や組織コミュニケーション、医療者の質の評価に関する研究、当事者の経験、医療者のヘルスリテラシーや情報支援のあり方、持続可能な医療関連サービスに関する研究など



教授/図書館長 田原 康玄
Yasuharu Tabara

主な担当 医科遺伝学概論、疫学・ゲノム疫学特論
授業科目 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関する疫学研究、ゲノム研究



教授 栗山 長門
Nagato Kuriyama

主な担当 健康政策・医療経済学概論、疫学・ゲノム疫学特論
授業科目 長寿・認知症・生活習慣病・骨粗鬆症などを中心とした予防医学に関する研究、健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究



教授 竹内 正人
Masato Takeuchi

主な担当 健康・医療ビッグデータ概論・特論
授業科目 SKDBなどの大規模医療データを用いた疫学研究(臨床疫学、薬剤疫学など)



教授 木下 和生
Kazuo Kinoshita

主な担当 医科遺伝学概論・特論、遺伝情報学演習、ゲノム医学演習
授業科目 がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連を含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究



教授 高木 明
Akira Takagi

主な担当 聴覚障害学、聴覚補償技術、健康政策論
授業科目 新生児スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究



教授 森 潔
Kiyoshi Mori

主な担当 基礎医学講座、ゲノム医学、生活習慣病
授業科目 健康増進を目的とした、腎疾患・生活習慣病・心血管疾患などの授業内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究



教授 山崎 浩司
Hiroshi Yamazaki

主な担当 死生学・健康医療社会学、質的研究法特講(M-GTA特講)
授業科目 看取りやグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、コミュニティアに関する(主に質的)研究



特定教授 橋爪 秀夫
Hideo Hashizume

研究指導 高齢者の健康増進に関する疫学研究、褥瘡発生リスク因子および薬疹・アナフィラキシー発症リスク因子探索



教授 高山 智子
Tomoko Takayama

主な担当 健康情報学、健康政策・医療経済学特論
授業科目 健康政策への市民参画や組織コミュニケーション、医療者の質の評価に関する研究、当事者の経験、医療者のヘルスリテラシーや情報支援のあり方、持続可能な医療関連サービスに関する研究など



教授 堀内 泰江
Yasue Horiuchi

主な担当 遺伝カウンセリング、臨床遺伝学、遺伝情報学演習、ゲノム医学演習
授業科目 ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関する研究、多因子遺伝性疾患におけるゲノム予防医学に関する研究、精神疾患病態解明のためのゲノム解析、疾患モデル研究



教授 古川 茂人
Shigetou Furukawa

主な担当 聴覚解剖・生理学概論・特論、聴覚心理学概論・特論
授業科目 聴覚知覚メカニズムとその発達過程の評価・解明に関する心理物理学・神経生理学研究



教授 小島原 典子
Noriko Kojimahara

主な担当 疫学概論、システマティックレビュー概論
授業科目 ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいと与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステマティックレビューや疫学研究



准教授 藤本 修平
Shuhei Fujimoto

主な担当 ヘルスケア・アントレプレナーシップ論、疫学概論
授業科目 高齢者運動リハビリテーション論
研究指導 リハ臨床の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究(大規模データ分析含む)、ヘルスコミュニケーション(主にShared decision making)、ヘルスケアビジネス領域のマーケティングリサーチ・ロジックモデルの作成及び評価



准教授 吉岡 貴史
Takashi Yoshioka

主な担当 疫学概論、社会疫学、健康政策・医療経済学特論
授業科目 企業の商業活動と健康格差および健康影響に関する社会疫学研究、健康経済学研究全般(特に医薬品・医療機器の費用効果分析)、医療者が現場のデータを使用して行う臨床疫学研究(臨床予測モデル含む)



講師 佐々木 八十子
Hatoko Sasaki

主な担当 文献検索法・文献評価法、プレゼンテーション、ライティングスキル、医療ケア組織論
授業科目 医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究



講師 佐藤 清香
Sayaka Sato

主な担当 栄養疫学・ヘルスプロモーション
授業科目 栄養疫学、健康教育(行動科学に基づいた栄養教育やヘルスプロモーション)に関する研究



准教授 溝田 友里
Yuri Mizota

主な担当 ヘルスコミュニケーション概論・特論、公衆衛生危機管理論
授業科目 ナッジやソーシャルマーケティング等の行動科学と、それらを活用した行動変容及び社会実装研究、メディア等を活用した普及啓発、ヘルスコミュニケーション・リスクコミュニケーションに関する研究



准教授 森 寛子
Hiroko Mori

主な担当 質的研究法、高齢者ケア概論・特論、公衆衛生危機管理論
研究指導 地域で暮らす人々の健康や幸福を主テーマとした質的/量的研究法による研究、在宅介護者のQOL、少数集団の体験・価値観の探索や高齢者施設に関する研究



准教授 田中 仁啓
Yoshihiro Tanaka

主な担当 循環器臨床・疫学研究概論、臨床疫学概論
研究指導 コホート研究・臨床データ・公的データベース(検診データ含む)を使用した、循環器疾患の予防及び危険因子解明に関する疫学・臨床研究



准教授 八田 太一
Taichi Hatta

主な担当 社会健康医学倫理概論・特論、混合研究法
研究指導 健康科学領域において量的アプローチと質的アプローチの両方をもちいる混合型研究



講師 佐藤 洋子
Yoko Sato

主な担当 オーラルヘルスプロモーション、疫学概論
授業科目 医療統計学概論・特論
研究指導 歯科疫学、観察研究における統計学的手法及び解析



講師 新屋 裕太
Yuta Shinya

主な担当 認知科学概論、言語・認知・発達学、知覚情報処理演習
研究指導 言語・認知機能の発達過程と機序の解明に関わる研究、ハイリスク児の発達評価および介入に関する研究



講師 Fehérvári Tamás Dávid

主な担当 言語・聴覚学特別演習
授業科目



特定助教 松浦 杏美
Ammi Matsuura

研究指導 褥瘡のリスク因子探索および予防策の開発、爪白癬と大腿骨近位部骨折の関連性に関する疫学研究

数字で見る 静岡SPH



社会人学生

100%

社会人として経験を積む課程で生じた健康課題の解決を志し、そのために必要な学識や統計学の学識、ヘルスコミュニケーションのスキルの獲得を目指す方が集っています。

26名

教員

学年定員10名に対し、さまざまな専門性を持つ教員26名が指導にあたります。大学院での研究では、領域を超えた幅広い指導を受けることができます。



1人1つ

院生室では1人1つずつ専用のデスクがあります。自分なりに居心地の良い空間をアレンジし、勉学に集中してください。



電子ジャーナル数

4,162

タイトル



本学で閲覧できる電子ジャーナルは総計4,037タイトル。多くの国立大学に引けを取りません。学外からもアクセスすることができますので、場所を問わず最新の論文を閲覧できます。

最も濃密な

30分

修士課程での研究成果を発表する特別研究発表会。15分間のプレゼンテーションと15分間の質疑応答は、在学期間の中で最も濃密かつ緊張度の高い30分です。

静岡に

1つ



ゲノム情報の医療応用を支援する遺伝カウンセラーの養成コースは、静岡県で本学のみです。

全国で

1つ

学部を持たず、社会健康医学研究科のみの大学院大学は全国で本学のみ。専門性の高い濃密な教育を提供しています。



24時間

利用可

院生室、ミーティングルーム、図書館等の学内設備は24時間利用可能。仕事終わりや休日にも多くの学生が集っています。

駅から20分

静岡市中心部に位置する本学は、静岡駅からバスで20分。自動車でのアクセスも良く、県内各地から通学可能です。

最速1時間

東京から静岡まで新幹線で1時間。都内や関東から通学している学生も多数。

入試情報

社会健康医学専攻 博士前期（修士）課程

■ 選抜区分・募集人員

	専攻・コース※1	選抜区分※2		募集人員
		推薦選抜	一般選抜	
	社会健康医学専攻 博士前期課程	○	○	10名 (遺伝カウンセラー養成コース最大2名、聴覚・言語コース最大3名を含む。)
特別 コース	遺伝カウンセラー養成コース	○	○	
	聴覚・言語コース	—	○	

※1 入学後に専攻・コースを変更することはできません。

※2 特別コースの試験科目・設問・配点は、推薦選抜、一般選抜ともに社会健康医学専攻博士前期課程と共通です。
また、推薦選抜と一般選抜を併願することはできません。

■ 試験科目・配点

推薦選抜※1	英語※2(60分)	小論文(60分)	面接(20分程度)	業務実績評価(書類選考)	一般選抜	英語※2(60分)	小論文(60分)	面接(15分程度)
	25点	25点	75点	25点		50点	25点	75点

※1 推薦選抜の詳細は学生募集要項をご覧ください。

※2 英語の試験は辞書持ち込み可です(通信機能や翻訳機能がない電子辞書も可)。

■ 入試スケジュール※1

出願資格審査申請期間※2	2026年8月28日(金)～9月4日(金) 必着
出願期間	2026年10月2日(金)～10月9日(金) 消印有効
試験日	推薦選抜:2026年11月7日(土)・8日(日)(2日間) 一般選抜:2026年11月7日(土)
合格発表	2026年11月27日(金)

※1 募集人員に達しなかった場合は二次募集を行うことがあります。

※2 短大卒や専門学校卒の方など学士の学位をお持ちでない方でも、出願資格審査で大学卒業と同等の学力があると認められれば出願可能です。

社会健康医学専攻 博士後期課程

■ 募集人員

2名

■ 試験科目・配点

英語※(90分)	100点
面接(30分程度)	100点

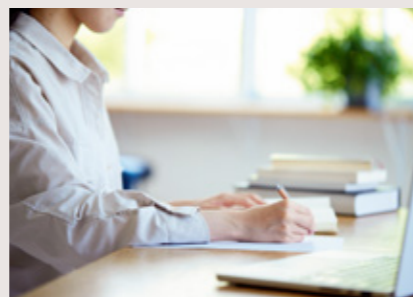
※英語試験は辞書持ち込み可です(通信機能や翻訳機能がない電子辞書も可)。

■ 入試スケジュール

出願前相談期間※1	2026年4月18日(土)～10月22日(木)
出願資格審査申請期間※2	2026年9月18日(金)～9月25日(金) 必着
出願期間	2026年10月23日(金)～10月30日(金) 消印有効
試験日	2026年11月29日(日)
合格発表	2026年12月11日(金)

※1 出願前相談は全員必須です(本学博士前期課程の在学者を含む)。研究指導を希望する教員と研究内容について相談してください。

※2 修士の学位をお持ちでない方は出願資格審査を受ける必要があります。医学・歯学・薬学・獣医学の6年制大学卒業(見込)者も出願資格審査が必要です。
詳細は学生募集要項をご覧ください。



博士前期課程・博士後期課程共通

■ 学費

	入学金	年間授業料	初年度学費
静岡県内の方※	141,000円	535,800円	676,800円
静岡県外の方	366,600円	535,800円	902,400円

※静岡県内の方とは、以下のいずれかに該当する方をいいます。

・入学手続を行う日の属する月の初日において、引き続き1年以上静岡県内に住所(住民票)を有している方

・入学手続を行う日の属する月の初日において、配偶者または一親等の親族が引き続き1年以上静岡県内に住所(住民票)を有している方

■ オープンキャンパス・オープンキャンパスミニ・オンライン説明会

開催日は、本学ウェブサイトをご覧ください。

■ オンライン個別相談

博士前期課程・博士後期課程ともにオンラインでの個別相談を受け付けています。入学を検討する上で分からないことや相談したいことがある方は、本学ウェブサイトからお申込みください。

Support system

サポートシステム

本学では、仕事と学びを両立したい方のために、柔軟で充実したサポート体制を整えています。



本学の学生を対象とした静岡県による奨学金制度があります。

詳細は静岡県のウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/kenkozukuri/kenkoigaku/1024914.html>)



種類	貸与型(無利子)
貸与額	60万円(年額)
貸与期間	博士前期課程:2年 博士後期課程:3年
返済免除要件	以下の条件を全て満たした場合は返済が免除されます。 ① 修士(社会健康医学)又は博士(社会健康医学)の学位を取得すること ② 修了後、県内の現場で医療、保健又は福祉に関する業務に5年間従事すること ③ 職場や地域において本学で学んだ成果を還元すること

博士前期課程・博士後期課程ともに、②の期間中は活動報告書を毎年度提出する必要があります。

長期履修制度

仕事や育児、介護等の理由により研究や学修の時間が限られ、標準修業年限で修了することが困難な場合に、履修期間を標準修業年限の2倍まで延長することができます。学費の総額は標準修業年限で修了した場合と変わりません。